日本医療機能評価機構認定病院

那珂川病院だより

VOL.53 平成25年1月

〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）
FAX.092-566-6460
http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

病院理念 ― 思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

巳年の新年を迎えて

那珂川病院　院長　下川敏弘

新年明けましておめでとうございます。

今年は巳年、へび年です。医療と蛇の関係は古く、脱皮をすることで元と同じ姿に生まれ変わるため再生と治癒のシンボルとされてきました。ギリシャ神話の医療・医術の神様であるアスクレピオスが持っている杖にも蛇が絡まっており、日本医師会のシンボルも蛇をあしらったものです。

今年の日本の医療界は大きな社会の変化の中でどのように進んでいくのでしょうか。昨年の選挙で医療は不要といっている政党はどこもありませんでした。皆さん医療や福祉は重要との考えです。また、多くの方が国民皆保険制度は守りたいとのことです。ただ、どの程度のものでなければならないか、国の負担はどの程度で個人の負担はどの程度か、などで異論が出ていました。医療だけでなく、経済や外交などでも問題となっています。エネルギー問題やTPPはどうなるのでしょうか。領土問題はどうでしょうか。選挙が終わってもまだまだ先が見えないのが現実です。国民に見合った政府しかできないというのは事実だと思います。さまざまな情報に惑わされず、正しく取捨選択し、要望を持ってしっかり実現できる活動が大切です。

さて、当院では1月4日にデイサービスセンター清和を開設しました。この清和という言葉は、茶道の和敬清寂に由来しています。主人と客人がお互いの心を和らげ敬い、茶室や茶会の雰囲気を清浄・静寂にすることを意味しています。当院の看護師寮もまた清和寮と呼んでいます。利用される方たちの心が和らぎ、楽しく安らかな気持ちになっていただきたいとの思いからです。加えて、3月には国道385号線に面した当院の近くに、居宅介護事業所を開所する予定です。地域に根ざした医療を求めて、きめ細かく対応できる体制を作り上げていきたいと考えています。

そんな医療機関として地域の要望に耳を傾け、皆様に支援していただけることを目指しています。

今年も那珂川病院をよろしくお願い申し上げます。

スノードロップ

緩和ケアだより

ボランティアだより

当院緩和ケア病棟では、開設当初よりたくさんのボランティアさんに関わっていただいています。現在登録は40名程度、週に一度の方から月に一度の方など活動状況は様々です。今回は毎週水曜日に活動いただいている『福岡ホスピスの会』の活動内容をご紹介します。

毎週水曜日、14：30～15：30まで4階病棟談話室にて「りりぃ喫茶」と題して、美味しいコーヒーやお茶を提供、音楽療法士のピアノに合わせて一緒に歌ったり、お話をしています。また、賑やかな談話室を好まれない患者さんのお部屋を訪問し、一緒にお茶を飲みながらお話をしたり、ご希望の患者さんにはアロママッサージを行うこともあります。その他にも、病院外への散歩や買い物、折り紙などを使った季節の飾り付けなど、それぞれの趣味や特技を生かし出来ることを出来る範囲で行います。

外出する機会の少ない入院患者さんにとって、ボランティアさんは外からのここちよい風を運んでくださるとても大切な存在です。

当院では、今年度も昨年9月から今年2月まで全6回でボランティア養成講座を開催、ボランティアを募集しています。ご興味のある方、全講座にご参加いただけなかった方も残り2回、ぜひご参加ください。

お待ちしております!

今後の予定

平成25年1月25日（金） テーマ **『家族ケア』**
講師 ● 臨床心理士 都能 美智代

平成25年2月22日（金） テーマ **『社会的援助・チームアプローチ』**
講師 ● ソーシャルワーカー 井上 萌　● 訪問看護師主任 松下 徳代　● 管理栄養士 林田 由美子

会　場	那珂川病院／5階研修室
時　間	17:30～18:30
問い合せ	ボランティアコーディネーター 山下 公子

緩和ケア病棟施設概要

病　室
全病床20床+予備室1室で全室個室です。
室料あり 7室、室料なし 13室（予備室は室料なし）

その他の設備
食堂・談話室、ファミリーキッチン、家族控室（宿泊可・有料）、面談室、説明室、介護浴室、一般浴室、洗濯コーナー、サンルーフ

緩和ケア病棟へのご入院について
- 主に、治癒が望めないと判断された悪性腫瘍の患者さんをケアします。
- 患者さんまたはご家族が病名・病状について理解していることが入院の条件です。
- 体調が安定したら、外泊したり、退院して緩和ケア外来に通院したり、在宅ケアを受けることもできます。在宅ケアは当院の在宅医療部が担当します。

ボランティアに参加して

村里 ヤヨイ

ボランティアグループ「福岡ホスピス」の会に参加し、那珂川病院の緩和ケア病棟に伺うようになって二年になります。週一回三時間程ですが、今も緊張します。奉仕の心は充分あると自負していますが、言葉の持ち合わせがあまり多くありません。病室に伺うとき、小さくノックしてドアをそっと開け「こんにちは、ボランティアです。コーヒーはいかがですか?

注文を頂きに来ました」と（柔らかい声で、笑顔でと自分に言いきかせながら）訪室します。苦痛表情の方、笑顔で迎えてくださる方、ご苦労様と労いの言葉をかけてくださる方、いろいろです。その出会いの全てが私には学習です。「いのちと向き合って、今を生きておられる」方々から多くのことを学ばせていただいている自分を感じます。

また、緩和ケア病棟で季節の折々に計画されるイベントに感動しています。忙しい業務と思われますのに、患者さんに「力と喜びといのち」を分かち合う努力を惜しみなくされている原口先生はじめスタッフの方々に私は敬意の気持ちを抱きます。

もう一つは、私達のボランティア活動の日に必ず談話室にお出でくださる谷田さんにひかれます。そして教えられます。谷田さんは奥様が那珂川病院で最期を迎えられたと聞いています。いつも柔和なお顔で談話室に座っておられますが、患者さんが一人、二人と谷田さんが座っておられるテーブルに着かれて話を始められます。その姿を見ると、「私などよりずっとボランティアの働きをされているな!」と感動します。

「緩和ケア病棟における臨床心理士の役割」

心理士　稲田 翼

緩和ケア病棟で勤務させていただくようになって半年が経過しようとしていますが、この期間にも多くの患者さんと関わらせていただきました。いつも笑顔で誰にでも感謝ばかりを述べる方が、ある時突然今でも残る過去のつらい体験を涙ながらに話してくださったり、私からすると年齢的に祖母にあたるような方からランチのお誘いを受けてお部屋で食事をご一緒したり、ある時にはお部屋のベッドの上からソフトボールのピッチングコーチをしていただいたりと、患者さんによってその関わりはさまざまでとても記憶に残る方ばかりです。ある患者さんから頂いた“頑張らないけどあきらめない”という言葉が印象的で、初めの頃の私にとって力んでいる自分を感じるのと同時に、自分のペースでもいいのかなと思えることで少し楽になったのを記憶しています。

心理士の役割として、一口に患者さんのケア、家族のケアといってもそれは千差万別で、精神科的な関わりとはまた違った日常の中でその方に合わせた関わりが重要で、して差し上げるものもあればしていただくものもあると感じています。その中でケアする側とされる側の関係ではなく、一人の対等な人間として相手に寄り添い、共に考え、悩み、喜び、そして悲しむことを通してその人がその人らしく過ごせるためのお手伝いをさせていただくことが心理士の役割だと考えています。

緩和ケア外来・相談のご案内

緩和ケア外来を受診される方や入院の相談や見学を希望される方は、必ず電話予約をお願いいたします。

● 電話受付時間
平日 9:00～17:00　TEL 092-565-3531（代）
連携室の看護師が対応します

● 緩和ケア外来
受付時間（予約制）火・水・木曜日 13:00 ～ 16:30
通院での緩和ケアも行います。緩和ケア病棟退院後の診療も行います。

入院費について
医療費は、健康保険制度による給付割合に従った料金です。
高額医療給付制度の適用があります。

（節分会の写真は11ページ）

ご心配なことがありましたら地域連携室をご利用下さい!

私たちが対応します!!

病気になると、健康な時にはなかったような問題がいろいろ起こってきます。そんな時、患者様やご家族の力になれるよう専門のスタッフが皆さまの心配事を一緒に考え、解決できるようお手伝いいたします。

地域連携室では現在看護師1名、医療ソーシャルワーカー2名が所属しています。

● 退院後のことが心配、転院先について知りたい

療養やリハビリが可能な病院や介護施設などと連携し、患者様やご家族が適切な転院先を決定できるようにお手伝いします。

● 自宅での療養、介護に不安がある

退院後の看護や、介護など自宅退院への心配なことがある場合、利用可能な医療、介護保険サービスを提案し、調整を図ります。

● 医療費、療養中の生活のことなど経済的な心配がある

● 介護保険や障害者の支援など、福祉の制度について知りたい

療養に関わる生活費、社会復帰のような社会環境面において利用可能な福祉サービスを提案します。

● その他不安はあるが、どこに相談したらいいのか分からない

など、お気軽にご相談ください。

緩和ケア病棟 節分会

那珂川病院だより（平成25年1月号）VOL・53 発行 那珂川病院 編集 日経メディカル開発

糖尿病教室のススメ

企画室長・医事課長 吉田 克己

当院では、隔週水曜午前10時より外来10番診察室にて、糖尿病教室を行っております。毎回異なるテーマで糖尿病療養指導士（看護師等）や各専門スタッフから講義形式にてお届けしております。

糖尿病教室のご案内

糖尿病は生活習慣病の代表的な病気です。
当教室では、糖尿病の基礎的な知識について
那珂川病院スタッフがわかりやすく説明します。
糖尿病の方・ご家族の方・病気でなくても気になる方は
是非お気軽にご参加ください。

参加費無料

毎月第1・第3水曜日 10：00～ 10番診察室にて

日程	内容
10月19日	糖尿病とは？糖尿病の検査について
11月 9日	食事についての糖尿病食事療法の基本
11月21日	食事についての間食・アルコールについて
12月 5日	糖尿病の合併症
12月19日	運動療法
1月16日	糖尿病薬物療法について
2月 6日	フットケア

約30分程度の教室です。詳しくは、外来スタッフにお尋ねください。

糖尿病は、インスリン作用の不足から高血糖状態をきたす病気ですが、高血糖がよほど極端でない限り、初期には症状が出ません。しかし、高血糖状態が慢性的に続くと、体のさまざまな部分に悪影響が出ます。昔からよく知られた合併症として、**糖尿病網膜症**、**糖尿病腎症**、**糖尿病神経障害**がありこれらを三大合併症と呼びます。

糖尿病網膜症が進行すると視力障害をきたして、最後には失明に至ることがあります。

糖尿病腎症は蛋白尿に始まり、末期に至ると尿毒症となり、人工透析が必要になります。

糖尿病神経障害は初期には足の裏のしびれなどの症状から始まり、進行すると心臓や胃腸など内臓の働きをコントロールする自律神経にも異常をきたし、起立性低血圧による立ちくらみや胃腸運動の異常による下痢や便秘の繰り返しなどさまざまな症状を引き起こし、突然死の危険も高まるといわれています。

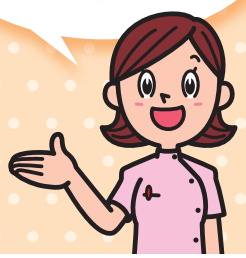
糖尿病教室の模様

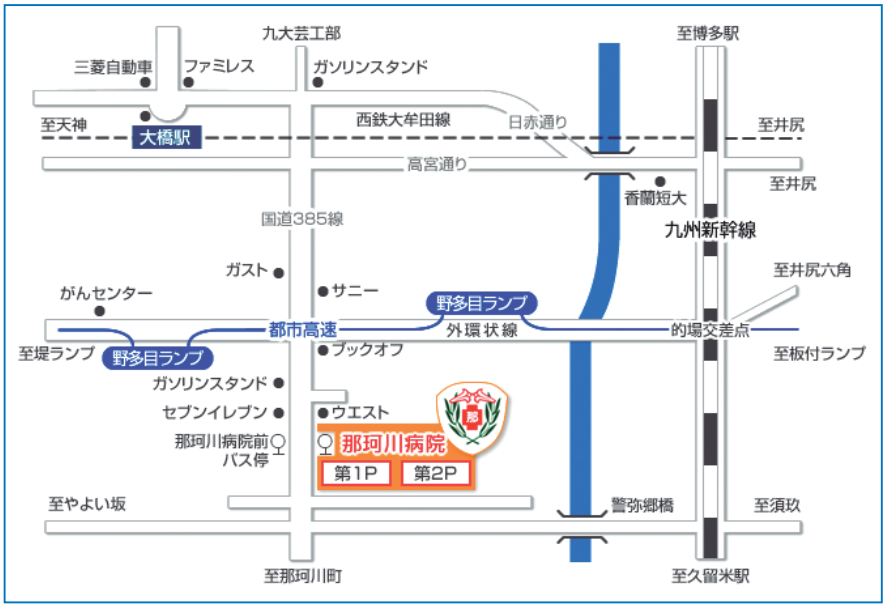
「糖尿病の合併症」について

「運動療法」について

「食事（間食・アルコール）」について

糖尿病は自己管理がとても大切な病気です。ぜひお気軽に糖尿病教室をご利用ください。





【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ ■駐車場150台

常勤医師診療担当表

医師名	担当領域
下川 敏弘	消化器外科、呼吸器外科、透析
大国 貴史	消化器外科、透析、漢方
古賀 健資	消化器外科、呼吸器外科
吉村 寛志	大腸・肛門外科、消化器外科
宮脇 龍一郎	循環器内科
筒井 伸一	消化器内科
大内田 敏行	放射線科
片桐 邦彦	脳神経外科
金宮 八重子	脳神経外科
原口 勝	緩和医療
古賀 善彦	リハビリテーション科（回復期）
熊澤 浩明	外科
福永 昌幸	麻酔科・外科・救急
竹内 一馬	血管外科・循環器内科
横山 良平	整形外科
月江 教昭	緩和医療・内科
溝上 浩士	整形外科

平成25年1月1日現在